

2024 年度ゼミ（演習 2A／演習 2B）要覧

| | |
|-------------------------------------|--|
| 担当者名 | 孫 占坤（そん せんこん） |
| 演習テーマ | 地域紛争・民族紛争を通して国際平和を考える |
| 校外実習 | 1、実施しない 2、実施（実施時期：2024 年 8 月下旬～9 月上旬） |
| メール・アドレス | sun@k.meijigakuin.ac.jp |
| オフィス・アワー | 火曜昼（まず、メールをください。時間帯について柔軟に対応する） |
| 2025 年度に開講 しない可能性 (在外研究・特別研究) | ない |
| 授業概要 | 中東地域をはじめ、世界各地の民族紛争・地域紛争について学び、平和を考える。なぜ紛争が起き、続くのか、妥協や解決の道筋があるのか。これらを基本的な問題意識とし、近代主権国家・国民国家形成の歴史、理論を学びながら、具体的な紛争事例について分析・考察を行う。校外実習を意識して、春学期にパレスチナ問題、(1990～2010 年代の) 旧ユーゴ紛争を取り上げる予定。秋学期にはアフリカ、アジア、(現在進行中のロシア・ウクライナ紛争を含めた) 旧ソ連地域など、もっと広く事例分析を行う予定。 |
| 学習目標 | 次の 4 点を学習目標とする。(1) 近現代主権国家・国民国家形成の歴史や理論を知ること。(2) パレスチナ・イスラエル、旧ユーゴなど、それぞれの地域の特殊性を理解すること。(3) 民族・地域紛争を解決するための国際的枠組(法制度、国際組織など)についての理解を深めること。(4) 一人の「地球市民」として自分が地域紛争・民族紛争の解決に向けて何ができるかを見つけること。 |
| 授業計画 | 詳細は新学期に向けての「シラバス」を参照していただきたいが、大まかな年間計画として、次のように考えている。 春学期(演習 2A)：パレスチナ問題、旧ユーゴ紛争について文献や映像を通して歴史を知り、現状を把握すること。 秋学期(演習 2B)：ロヒンギャ、ナゴルノ・カラバフ、ルワンダ、キプロスなど、アジア、アフリカ、旧ソ連圏に広げて、紛争事例の特殊性を分析し、紛争解決の一般的制度、仕組みについて考える。 |
| 予習 | 授業の内容を正確に理解してもらうため、 毎回予習の課題提出が求められる。 |
| 復習 | 授業の内容をより深く把握してもらうため、復習課題の提出も求められる。 |
| 授業に関する 注意事項 | ① ゼミに欠席せず、必ず出席し、かつ、積極的に議論へ参加すること。 ② 宿題もきちんと提出すること。 |
| 教科書 | (1) 臼杵 陽『世界史の中のパレスチナ問題』講談社。 (2) 月村 太郎『民族紛争』岩波書店。 |
| 参考書 | (1) 山影 進(編著)『主権国家体系の生成』ミネルヴァ書房。 (2) 臼杵 陽『イスラエル』岩波書店。 (3) 板垣 雄三『石の叫びに耳を澄ます』平凡社。 (4) 千田 善『ユーゴ紛争はなぜ長期化したか』勁草書房。 |

| | |
|-------------|---------------------|
| 成績評価の 基準 | 授業の参加度：50%、レポート：50% |
| 関連 URL | |
| 備考 | |